

☎テレホン法話(0577)34

2313

○2月21日〜28日:岩崎正親氏「正覺寺」

○3月1日〜10日:櫻庭和雅氏「西光寺」

○3月11日〜20日:日野修文氏「桂林寺」

◎宗教トラフル版相談窓口(0577)3210763

今、言葉は磨かれていくのでしょうか。
「磨く」という言葉は、研ぐ、削る、つやを出すといった作業のみならず、技を練りあげる、洗練される、心身を鍛えるといった技芸や文化の領域でも使える言葉です。ですから、詩人が言葉を磨き、作家が何れも何れも文章を推敲して作品を完成させるような場合にも使われる言葉です。

私は大学の文学部に勤務する教員です。職責上、学生や大学院生が書いたレポートや論文に手を入れます。博士課程の院生が学会誌に発表するような場合は、何れも朱を入れます。

いくつもの雑誌の編集委員もやっており、その

でも査読・添削の作業をしています。また、書籍の編著では各章を書かれた方の文章を手直しした

す。このような文章の校正が私の教育・研究時間の三分の一くらいをしめるのですが、若い世代の文章力が落ちているのではないかと感じます。

情報化社会も進展しまして、メールのやりとりは携帯・スマートフォンで誰でもできますし、この数年、SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)が急速に普及しています。読者も書き込めるブログ(電子日記)を開設している人は多いですね。電子情報のやりとりの記録を網羅的に苦むる式に調へ上げて、ネットワークのコミュニティを作るフェイ

うに思われます。書きっぱなしの言葉が世に溢れ、それが消えることなく、膨大な電子情報の世界に蓄積されています。個人の日記や備忘録が常時公開され、雑感

が交換され、記録簿に保管されているというわけです。自分のブログで削除したとしても、誰かがその記録を保管し、他の人にどんどん知らせてしまえば、もう自分では消すことができないのです。にもかかわらず、多くの言いつ放しの言葉が毎日大量生産されています。

私はブログを何度か始め、断念し、ということをし、繰り返してききました。面倒くさいといういわけに加えて、自分の所感など後から考えれば取るに足らぬことだったり、後日調べ直したり熟考すれば取り消した方がよいような事柄が多いのだから、人に見せるのは恥ずかしいということがあります。

電子コミュニケーションは技術です。しかし、技術の形態が思考や仕事の仕方を変えていきます。大学の話に戻しますと、学生たちはゆつくり考える前に発信します。文字は打つものであって、言葉や文章として磨きあげ

という習慣はないのです。アナクロな私の添削など、彼・彼女たちの電子コミュニケーションの

うに思われます。書きっぱなしの言葉が世に溢れ、それが消えることなく、膨大な電子情報の世界に蓄積されています。個人の日記や備忘録が常時公開され、雑感

が交換され、記録簿に保管されているというわけです。自分のブログで削除したとしても、誰かがその記録を保管し、他の人にどんどん知らせてしまえば、もう自分では消すことができないのです。にもかかわらず、多くの言いつ放しの言葉が毎日大量生産されています。

私はブログを何度か始め、断念し、ということをし、繰り返してききました。面倒くさいといういわけに加えて、自分の所感など後から考えれば取るに足らぬことだったり、後日調べ直したり熟考すれば取り消した方がよいような事柄が多いのだから、人に見せるのは恥ずかしいということがあります。

電子コミュニケーションは技術です。しかし、技術の形態が思考や仕事の仕方を変えていきます。大学の話に戻しますと、学生たちはゆつくり考える前に発信します。文字は打つものであって、言葉や文章として磨きあげ

という習慣はないのです。アナクロな私の添削など、彼・彼女たちの電子コミュニケーションの

でも査読・添削の作業をしています。また、書籍の編著では各章を書かれた方の文章を手直しした

す。このような文章の校正が私の教育・研究時間の三分の一くらいをしめるのですが、若い世代の文章力が落ちているのではないかと感じます。

情報化社会も進展しまして、メールのやりとりは携帯・スマートフォンで誰でもできますし、この数年、SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)が急速に普及しています。読者も書き込めるブログ(電子日記)を開設している人は多いですね。電子情報のやりとりの記録を網羅的に苦むる式に調へ上げて、ネットワークのコミュニティを作るフェイ

うに思われます。書きっぱなしの言葉が世に溢れ、それが消えることなく、膨大な電子情報の世界に蓄積されています。個人の日記や備忘録が常時公開され、雑感

が交換され、記録簿に保管されているというわけです。自分のブログで削除したとしても、誰かがその記録を保管し、他の人にどんどん知らせてしまえば、もう自分では消すことができないのです。にもかかわらず、多くの言いつ放しの言葉が毎日大量生産されています。

私はブログを何度か始め、断念し、ということをし、繰り返してききました。面倒くさいといういわけに加えて、自分の所感など後から考えれば取るに足らぬことだったり、後日調べ直したり熟考すれば取り消した方がよいような事柄が多いのだから、人に見せるのは恥ずかしいということがあります。

電子コミュニケーションは技術です。しかし、技術の形態が思考や仕事の仕方を変えていきます。大学の話に戻しますと、学生たちはゆつくり考える前に発信します。文字は打つものであって、言葉や文章として磨きあげ

という習慣はないのです。アナクロな私の添削など、彼・彼女たちの電子コミュニケーションの

でも査読・添削の作業をしています。また、書籍の編著では各章を書かれた方の文章を手直しした

す。このような文章の校正が私の教育・研究時間の三分の一くらいをしめるのですが、若い世代の文章力が落ちているのではないかと感じます。

情報化社会も進展しまして、メールのやりとりは携帯・スマートフォンで誰でもできますし、この数年、SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)が急速に普及しています。読者も書き込めるブログ(電子日記)を開設している人は多いですね。電子情報のやりとりの記録を網羅的に苦むる式に調へ上げて、ネットワークのコミュニティを作るフェイ

うに思われます。書きっぱなしの言葉が世に溢れ、それが消えることなく、膨大な電子情報の世界に蓄積されています。個人の日記や備忘録が常時公開され、雑感

が交換され、記録簿に保管されているというわけです。自分のブログで削除したとしても、誰かがその記録を保管し、他の人にどんどん知らせてしまえば、もう自分では消すことができないのです。にもかかわらず、多くの言いつ放しの言葉が毎日大量生産されています。

私はブログを何度か始め、断念し、ということをし、繰り返してききました。面倒くさいといういわけに加えて、自分の所感など後から考えれば取るに足らぬことだったり、後日調べ直したり熟考すれば取り消した方がよいような事柄が多いのだから、人に見せるのは恥ずかしいということがあります。

電子コミュニケーションは技術です。しかし、技術の形態が思考や仕事の仕方を変えていきます。大学の話に戻しますと、学生たちはゆつくり考える前に発信します。文字は打つものであって、言葉や文章として磨きあげ

という習慣はないのです。アナクロな私の添削など、彼・彼女たちの電子コミュニケーションの

でも査読・添削の作業をしています。また、書籍の編著では各章を書かれた方の文章を手直しした

す。このような文章の校正が私の教育・研究時間の三分の一くらいをしめるのですが、若い世代の文章力が落ちているのではないかと感じます。

情報化社会も進展しまして、メールのやりとりは携帯・スマートフォンで誰でもできますし、この数年、SNS(ソーシャル・ネットワーク・キング・サービス)が急速に普及しています。読者も書き込めるブログ(電子日記)を開設している人は多いですね。電子情報のやりとりの記録を網羅的に苦むる式に調へ上げて、ネットワークのコミュニティを作るフェイ

うに思われます。書きっぱなしの言葉が世に溢れ、それが消えることなく、膨大な電子情報の世界に蓄積されています。個人の日記や備忘録が常時公開され、雑感

が交換され、記録簿に保管されているというわけです。自分のブログで削除したとしても、誰かがその記録を保管し、他の人にどんどん知らせてしまえば、もう自分では消すことができないのです。にもかかわらず、多くの言いつ放しの言葉が毎日大量生産されています。

私はブログを何度か始め、断念し、ということをし、繰り返してききました。面倒くさいといういわけに加えて、自分の所感など後から考えれば取るに足らぬことだったり、後日調べ直したり熟考すれば取り消した方がよいような事柄が多いのだから、人に見せるのは恥ずかしいということがあります。

電子コミュニケーションは技術です。しかし、技術の形態が思考や仕事の仕方を変えていきます。大学の話に戻しますと、学生たちはゆつくり考える前に発信します。文字は打つものであって、言葉や文章として磨きあげ

という習慣はないのです。アナクロな私の添削など、彼・彼女たちの電子コミュニケーションの

ひだご坊
No.283
2013年2月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
発行者 大町 慶華
〒506-0837 高山市鉄砲町6番地
☎(0577)32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社



(略歴)

一九六一年生まれ。北海道大学大学院教授。宗教社会学、東アジアの宗教文化を研究。近年は過疎地域の寺院を調査している。



「洛陽訪問」
①五条西洞院の聖人の住居 ②親鸞聖人(68歳)
③平太郎 ④蓮位坊

親鸞聖人絵伝下巻第五段「洛陽訪問」
聖人は、二十五年ぶりに京へ戻りました。しかし、都は大きく様変わりしており、転々とした五条西洞院のあたりに落ち着きました。そこへは、時折遠く関東から面授の門弟が訪ねてきました。その中に、常陸国那珂郡大番役(御所の警護役)につき従って上洛したのです。末方はこの折に、熊野詣をするつもりでいました。しかし、平太郎は弥陀如来一仏に帰命する身として、神祇不拝と教えられていたので、教えに背くことにならないかとおそれ、聖人を訪ねたのです。

聖人は、「本地垂迹」によれば、熊野本宮の神の本地は阿弥陀如来です。弥陀が衆生を救おうと権に神に姿を変えて示現してくださったのです。弥陀の誓願を信じて専修念仏を称える人が、公務や領主に従って社廟に詣でることは、自分の発願ではないのだからかまわない。それは決して神威を軽んずることにはならない。ただ弥陀の誓願にまかせて念仏申すのです」と説きました。それで、平太郎は末方につき従って熊野へ出かけました。

マでしかないのです。何れ度も書き直すという習慣は、博士課程の大学院生でようやく身につくかどうかというところですね。ついでに言う学生・大学院生は本を読まなくなりました。ネットで情報のみ検索します。レポートは電子情報の切り貼りが増え、最近はその見破るソフトウェアまで教員用に販売されています。

言葉が情報・記号と化し、知恵や経験によって磨かれなくなつたとき、私たちの思考や仕事に創造性は生まれるのでしょうか。電子機器がない時代に語られた言葉、書かれた言葉に思想の深みを感じる昨今です。

公開講座 現代と真宗

母親が語る 原発問題

— 原発労働者の死 —

しまはし みちこ
講師 嶋橋 美智子 氏

1937年、神奈川県生まれ。1991年に中部電力浜岡原子力発電所で8年間放射線被曝労働に従事した息子・伸之さん(当時29歳)を白血病で亡くす。1993年に労災申請し、翌1994年に認定される。その後、精力的に各地で講演をし、原発問題に対し問題提起し続けている。著書は「息子はなぜ白血病で死んだのか(技術と人間)」、その再版「息子は死んだ一嶋橋原発被曝労災認定までの記録-」(新読書社)、「いのちを奪う原発」(インタビュー記事掲載/東本願寺出版部)

日時 2013年4月12日(金)
午後7時~9時30分
会場 高山別院御坊会館

入場 無料

親鸞聖人の一家が、越後国から常陸国の稲田に向かう途中の同国下妻の「さかいの郷」で、恵信尼は一つの夢を見た。それは、どこかの御堂の落慶供養の様子であった。

御堂は、東向きに立ち、宵祭りらしく、立て燭が備えられていた。その立て燭の奥で御堂の前に、鳥居のようなものが渡してあり、そこに仏の絵像が二幅掛けられていた。一体は、仏の顔らしくはなく、ただ光の中心が仏の頭光のようで、はつきりした姿は分らないが、光ばかりの像であった。もう一体は、はつきりと仏の顔であることが分かった。恵信尼は夢の中で、「これは何仏にてわたらせ給うぞ」と尋ねると、誰とはなしに、「あの光ばかりにてわたらせ給うは、法然上人にてわたらせ給うぞかし」と答えが帰ってきた。「さて又、いま一体は」と問うと、「あれは観音にてわたらせ給うぞかし。あれこそ普信の御房よ」と言われて、驚いて目が覚めたので夢であったことが分かった。しばらくは、夢の話などは他人に話すものではないと聞いていたし、自分が話しても信用されな

しなから光にてわたらせ給う」と応えてくれた。殿が観音であると告げられたことは、話さなかったけれども、ただ自分の心の中では、殿のことをその後普通の方と思うことはなかった。

以上が、その夢の記事の要点である。御堂の中には、本尊として阿彌陀如来が安置されていることが想定されなければならない。その阿彌陀如来の前に、二幅の仏の絵像が掛っているのである。光ばかりの仏は、法然上人、勢至菩薩です、もう一体の仏は、観音菩薩

は、観音とあらわれ、勢至としめす(「唯信鈔文意」と明かす親鸞聖人の言葉が重なってくる。法然によつて浄土宗が興行されることと、「ただ念仏して弥陀にたすけられまいらすべし」という教えにおいて、一切衆生の全てが平等に救われて行く道が、初めて明瞭になった。これを唱導した法然上人は、既に亡くなられている。これを受けて、夫親鸞は、京に戻らず、二人とも行ったことがない関東へ行くと言ひ出し、自分もこれに従おうと決断した。この時の恵信尼は、小さな子どもたちを抱えて、見知らぬ土地に向かう不安やためらいもあったはずである。しかし、その不安も迷いも打ち砕くように恵信尼の心情を支えたものは、夫親鸞が、法然上人亡き後、その念仏の教義を開顕しようと立ち上がろうとする姿であった。それは法然の意志を継ぐとする行為であり、弥陀の本願に生きようとする意欲であった。



恵信尼は、この第三通の前半で、六角堂参籠から吉水入室に至る法然上人との出遇いを記して、念仏に帰依した姿を語り、その後半で、下妻の夢の法然上人の死別を乗り越えて本願に生きようとする姿を示している。この二つの証文を元にして、「かく御心得候うべし。されば、御臨終はいかにもわたらせ給え、疑い思いまいらせぬ」と、自らの聖人に対する絶対的な信頼を、恵信尼だけに証している。この二つを記すことで、第三通は一旦締められていく。

定例法座・法話(午後1時から) ○2月21日(木)：藤守博氏「常光寺」 ○2月27日(水)：大町慶華輪番 ○2月28日(木)：窪田哲氏「圓徳寺」 ○3月1日(金)：三島清國氏「西念寺」 ○3月11日(月)：大町慶華輪番 ○3月13日(水)：岩佐幾代氏「淨永寺」

第三通は一旦締められていく。

第三通は一旦締められていく。

嘉念坊善俊上人法要
並びに顕彰会総会
飛騨における真宗の祖
嘉念坊善俊上人の祥月
命日にあたる3月3日、
高山別院本堂において法
要と総会を行います。総
会後、講演会を行います
ので、会員以外の方もこ
聴講ください。(無料)
日時 3月3日(日)
午後1時30分
会場 高山別院 本堂
講師 三本昌之氏
「清見組連徳寺」
講題 「清見組連徳寺」
絵伝・絵解き
顕彰会会員募集
会費 年2,000円
「活動内容」
総会 3月3日
会報 年1回発行
御坊文化講座開催 年4回
聖跡巡拝旅行 年1回

聖教学習会
日時 3月8日(金)
午後1時30分
午後4時30分
講師 安富信哉氏
講題 「天谷大学特別市教壇」
「唯信鈔」講義
「法然から親鸞へ」
会場 高山別院会館2階
研修室
会費 無料
第31回
別院真宗公開講座
第4回
講師 三明智彰氏
(九州大谷宗大寺副住持)
日時 2月25日(月)
午後2時~4時
講題 「た念仏のみの慈悲」
会場 高山別院御坊会館
聴講費 600円

東本願寺創立の上人
教如上人四百回忌法要
団体参拝のご案内

今年は真宗大谷派第十二代教如上人の四百回忌にあたり、本山では4月の春の法要に併せて「教如上人四百回忌法要」が勤まります。高山別院でも団体参拝を予定しておりますので、ぜひご参加ください。

期日 4月3日(水)【日帰り】
日程 午前 五村別院参拝
午後2時 速夜法要参拝
参加費 10,000円
(食事代含む)
募集 200名
締切 2月28日(木)
※定員になり次第締め切り

※お問い合わせは高山別院(TEL0577-32-0688)まで

中学生・高校生のつどいin高山別院
—僕たちが本当に求めていること—

3月26日(火)~27日(水) 参加費 2,000円

お寺で一泊して、みんなで鍋を食べたり、お話を聞いていろいろ考えたり、楽しくわいわい語り合いませんか?

【募集対象】中学1年生~高校3年生
※4月から新中学1年生になる子も参加してね
定員: 20名 ※定員になり次第締め切り
締切日: 2013年3月11日(月)

春の彼岸会・永代経法要

亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

3月17日(日)~23日(土)
午後1時から勤行・法話

17日(日)	大町 慶華 (別院輪番)
18日(月)	三島 多聞氏(真蓮寺住職)
19日(火)	四衝 亮氏(不遠寺住職)
20日(水)	竹田 雅文氏(東等寺住職)
21日(木)	三本 昌之氏(蓮徳寺住職)
22日(金)	江馬 雅人氏(賢智寺住職)
23日(土)	中飯田正夫氏(賢蓮寺住職)